

令和5年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		やさしく かしく たくましく ～豊かな自分づくりと共に生きる人間の育成～		4月		2～3月	
推進主体		管理職と主幹教諭、学年主任を中心に学校教育改革推進委員会を設置し、以下の改善プランを策定		学力向上に向けての重点的な目標		年度末評価	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等				(指標となる数値等)		(成果目標達成のための具体的な手立て等)	
						(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
						評価	
学力の状況	国語	全国学力・学習状況調査結果(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	<p>○図やグラフ・挿絵など、様々な表現された非連続テキストとテキスト情報を関連付ける学習活動を展開している。言語活動において、条件を整理する活動と評価活動を積極的に取り入れたことで「相手意識」「目的意識」「場面意識」などを発揮し、学びを再考する学習態度が成長となって表れている。</p> <p>○のあてと振り返りを重視し、基礎的・基礎的な学習を学年に応じた実施しているため、基礎学力の定着だけではなく論理的に考える習慣が力となっている。</p> <p>○意図・目的を明確にした「書く活動」を単元内・授業内に位置付け、適宜評価を返す活動を行っている。相手に伝わったかどうか実際に評価をもらう相互評価を位置づけ、言語活動と評価活動を関連させ充実させている。</p> <p>◆授業内で取り扱った「技・コン・観点」といったものを使いこなしていく意識を持った単元の構築や書き指導のふり返りを充実させることで、何ができていないのか視覚的に理解できるように改善していく。</p>	<p>○学期末の算数や漢字のまとめのテストで9割以上の定着をめざす。</p> <p>○研究会アンケートにおいて学びの積み上げに対する肯定的な評価を得る。</p>	<p>A:漢字や計算の定着度評価し適宜プリント等で補充する。</p> <p>B:学期末定着度テスト(漢字・計算)を実施し目標到達ラインに届くまで放課後等に補充学習を行う。</p> <p>C:学習の中に学びをふり返ったり、「見える化」する活動を位置づける。</p> <p>D:「ゆりのきスタンダードノート編」にもとづいてノートを継続する。</p> <p>E:「学び方開き」の授業や研修を行い、学びの連続性を重視する。</p>	<p>①基礎・基本の育成を図り、学習意欲を高める</p> <p>②本に親しむ子の育成を図る</p> <p>③コミュニケーション能力の育成を図る</p> <p>④豊かな心の育成を図る</p> <p>⑤生活習慣の確立をめざす</p> <p>⑥健やかな体づくりを図る</p> <p>⑦学校・家庭・地域との連携と協働を図る</p>	
	算数	<p>○図やグラフ・文章など様々な表現された情報を関連付け、条件を整理する活動を積極的に取り入れたことが成果となって表れている。</p> <p>○のあてと振り返りを重視し、基礎的・基礎的な学習を学年に応じた実施しているため、基礎学力の定着だけではなく筋道立てて考える習慣が力となっている。</p> <p>○公式に当てはめて面積を求めるだけでなく、面積や体積を求めるために必要な図の表書きを指示し、説明を加える学習を進めていることが成果となって表れている。</p> <p>◆關係図、線分図、数量線などの図を活用し、基本量と比較量を明確にとらえたうえで公式、自分の考えを式、式、音楽を伴って図解する活動を行う。</p> <p>◆「書くこと」を大切にしながら思考力を中心とした研究をさらに進め、「生活に活用できる汎用的能力」の在り方について検討を進める。</p>	<p>○子どもアンケートで「学校外でも進んで読書をしている」と答える児童の割合の現状維持(8割以上)をめざす。</p> <p>○子どもの読書活動をを進めるうえで、環境整備を発達段階に応じて行う。</p>	<p>A:全校一斉読書タイムを継続する。</p> <p>B:毎朝の10分間読書や毎月23日を「家族読書の日」に読んだ本の題名や感想を読書通帳に記録させる。</p> <p>C:学年の発達段階に応じた図書を学年フロアの学年図書館に入れる。</p> <p>D:学校司書や図書委員会と連携して学校図書館の稼働率を上げる。</p> <p>E:読書ボランティアによる読み聞かせ・ブックトークを継続する。</p> <p>F:発達段階に応じた環境整備を行い、読書に親しむよう工夫する。</p>			
	ICT機器を効果的に活用した取組状況	<p>◆SNSやゲーム、スマホ、タブレットの利用時間や利用方法について、情報モラルに関する学習に継続して取り組む。中学校区内においても心配な事象が起こっており、小中学校での情報共有や連携を進めていく。</p> <p>◆タブレットの活用に関しては、効果的な活用のあり方について研究を進めている。また、質問紙調査からも児童生徒の興味関心の高さがうかがえる。今後中学校区で取組内容や成果を交流することによって、系統的な指導、効果的な指導をさらに追究していきたい。</p>	<p>○学校評価アンケート(職員)の教科学習「体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、自ら学ぶ力や思考力を高める指導方法の工夫ができてきている」の項目で研究の成果を問い、肯定評価8割以上をめざす。</p> <p>○他校の先生より研究会アンケートにおいて「対話的」をキーワードに肯定的な評価をめざす。</p>	<p>A:研究テーマ「人とつながり、課題解決に向かう子どもをめざして～書く活動を通して、子どもたちの思考を見とり・高める～」に沿った授業づくりを行う。</p> <p>B:学習の中に「異学年交流」や「地域の方々との交流」を取り入れ、身につけた力を活用する場の設定を行う。</p> <p>C:一人一授業を公開し、全職員で授業力向上に努める。</p> <p>D:研究会で対話的な学習が効果的に作用している学習場面を公開する。</p>			
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<p>◆算数科においては、基本の計算力が身に付いている児童が多いが、文章題での活用や記述に課題のある児童もみられる。</p> <p>◆漢字テストでは、習った漢字は書けるが、文章の中で活用する力に課題がある。</p> <p>◆基本的な計算に時間がかかる児童や計算のケアレスミスのある子がみられる。</p>	<p>○学校評価アンケート(職員・保護者)や子どもアンケートの「子どもの育ち」(やさしく)の項目で肯定評価8割以上をめざす。</p>	<p>A:「学校いじめ防止基本方針」にもとづき、いじめ未然防止、早期発見・解決のための取り組みを行う。</p> <p>B:「あいさつ運動」を実施し、進んであいさつできる児童をめざす。</p> <p>C:「ピーミー」の歌の歌詞や学校教育目標をもとに、子どもたちがめざすピーミーの姿を各学年・各学年で具現化し、学習目標とする。</p> <p>D:学校外の教育力を活用し、多様な生き方・考え・表現にふれさせる場を設定する。</p> <p>E:「あかつき」のこころはばたけ「心きらく」「心とめくく」を活用して道徳・人権教育の充実を図る。</p>			
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<p>◆意図的に学習に取り組んでいるが、姿勢保持や集中力を持続できない子が多い。</p> <p>◆授業の中でめざしてもって取り組み、学習のふり返り(自己評価)を行うことが定着しているが、めざして沿ったふり返りになっていない場合がある。</p> <p>◆発表時に必要な声の出し方が身に付いていない児童がいる。</p>	<p>○子どもアンケートで、正しい姿勢・持ち物への記名・後片付け・掃除ができてきているかを確認する。</p>	<p>A:自立した生活(早寝・早起き、整理整頓、時間を守る、礼儀)ができる児童をめざす。</p> <p>B:よい姿勢(話す・聞く姿勢、鉛筆の持ち方、靴の履き方)を身につける。</p> <p>C:善悪の判断ができる子を育成する。</p> <p>D:ゆりのきスタンダード掃除編(お掃除3の約束)の徹底と、掃除を積極的にする子をめざす。</p>			
慣学・力生向上活習に慣係する等の学習状況	<p>全国学力・学習状況調査の質問紙の状況</p> <p>◆「自分には、よいところがあると思えますか」の質問に対しては、約25%の児童が否定的な回答をしている。学級活動での当番活動や、学校行事などで役割を担えるような活動を充実させ、活動したことに対する自己評価や相互評価などを積極的に取り入れる。その際に、キャリアパスボードなどを活用し、記録して整理する活動を進める。</p> <p>◆「今住んでいる地域の行事に参加していますか」と「自然の中で遊ぶことや自然観察をするのが好きですか」の質問に対して、否定的な回答が半数を占め、地域の文化交流したり、「自分が地域の一員である」と気づけたりできるような取り組みを総合的な学習の時間などを活用して実践計画を立てる。また、各校や校外での学習において自然とふれあうことのできるようなプログラムを計画的に実施する。</p>	<p>○子どもアンケートで、運動遊びができてきているかを確認する。</p>	<p>A:外遊びの推奨といろいろな遊びが体験できるよう環境整備・時間確保を行う。</p> <p>B:栄養教諭と連携を取りながら食育を推進する。</p>				
研校内の研究状況	<p>校内研究の状況</p> <p>◆「人とつながり、課題解決に向かう子どもをめざして」をテーマに国語科を中心とした研究に取り組んでいる。</p> <p>◆新職員体制での研究に対応するために、「ゆりのきスタンダード」を基本から共通認識する場を設定する。</p>	<p>○学校評価アンケート(職員)学校運営「学校施設を地域の活動のために開放したり、ゲストティーチャーを活用する等、地域と児童が共に学ぶ環境づくりや授業づくりをしている」の項目で9割の肯定評価を維持する。</p>	<p>A:コミュニティスクールの推進を図るために、学校運営協議会を年間を通して計画的に開催し、学校評価の項目や結果を共有する。</p> <p>B:「ゆりのき子どもネットワーク」との連携を図るために窓口となる校内コーディネーターをおき、ネットワーク会議に参加する。</p> <p>C:児童に地域行事に参加する意義を伝え、積極的に参加するよう呼びかける。</p> <p>D:学校支援ボランティアと連携した授業の工夫を行う。</p> <p>E:学校が「めざす子どもの姿」を学級集会や教育課程説明会などで提示し、家庭での協力を求める。</p>				
家庭・携校種間	<p>家庭・地域等の状況</p> <p>◆グストティーチャーや地域ボランティアの協力を得て、学習の成果をあげている。</p> <p>◆コミュニティスクールとして、学校運営協議会を核として地域と学校・家庭の連携を図っている。</p>						
	<p>小・中における教科連携等の状況</p> <p>◆小中一貫教育推進に向けて共有化を図る。教師間の交流を密にして、双方にとって有益な交流になるよう工夫する。</p>						